

りそな 経済フラッシュ

(米国FOMC)

◎注意事項をよくお読み下さい



○概況

- ◆ 政策金利の誘導水準を3会合連続で0.25%引き下げ
- ◆ 更なる利下げには慎重な一方、利上げについても当面念頭にないことを示唆
- ◆ 金融政策は利下げ局面から、いかに低金利を長期化させるかに移ってくるであろう

✓ FRBは10/29-30に行われたFOMC（連邦公開市場委員会）にて、**政策金利を3会合連続で0.25%引き下げ、1.50～1.75%とした。**今回の利下げに対して10人中賛成が8人、反対が2人（今会合での政策金利据え置きを主張）となった。

✓ 声明文では、先行きの利下げを示唆する「不確実性の高まり」に対して「適切に行動」するとの文言が削除された。**更なる利下げには慎重なスタンスを示したと言える。**パウエル議長は、雇用や所得環境の改善を背景とした個人消費の強さに言及。また直近では米中通商協議が進展していることや英国の「合意なきEU離脱」の可能性が後退していることを評価した。

✓ **一方、利上げについても慎重なスタンスを示した。**パウエル議長は、利上げの可能性について聞かれ、90年代に予防的利下げをした際にはインフレがきっかけとなったことを紹介。**足もとの局面はインフレ率が目標の2%に達しておらず、利上げにはインフレ率の著しい上昇が必要だとした。**利上げについては当面念頭にないと言える。

✓ 今回のFOMCは利下げ後に、先行きの金融政策への思惑からマーケットを混乱させないという課題があった。結果として利下げ期待はFOMC前後でほぼ変わらず。FRBとしては、うまく対処したと評価できよう。**金融政策は利下げ局面から、いかに低金利を長期化させるか(lower for longer)に移っていくであろう。**

【FOMC参加者の見通し（9月時点）】

	FRB見通し（中央値）				
	2019	2020	2021	2022	長期
実質GDP	2.2↑	2.0	1.9	1.8	1.9
6月時点	2.1	2.0	1.8	-	1.9
失業率	3.7↑	3.7	3.8	3.9	4.2
6月時点	3.6	3.7	3.8	-	4.2
PCEインフレ率	1.5	1.9	2.0	2.0	2.0
6月時点	1.5	1.9	2.0	-	2.0

【FFレート見通し内訳-FOMC参加者の人数】

	今後の利上げ回数	2019		2020		2021		2022	Longer run	
		6月	9月	6月	9月	6月	9月	9月	6月	9月
3.500										
3.375	6回									
3.250									2	1
3.125	5回			1		1				
3.000									2	1
2.875	4回					1		2		
2.750									3	3
2.625	3回	1		2		3	1	2		
2.500									8	8
2.375	2回	8		5	1	5	5	5	1	1
2.250										1
2.125	1回	1	5	2	6	2	4	4		
2.000										1
1.875	現在	7	5	7	2	5	3	3		
1.750										
1.625	▲1回		7		8		4	1		
1.500										
平均値		2.169	1.846	2.213	1.875	2.316	2.066	2.272	2.695	2.570
中央値		2.375	1.875	2.125	1.875	2.375	2.125	2.375	2.500	2.500

今回FOMCで提示された中央値の利上げベース 中央値 【出所】FRB